



▲古鉄橋を譲り受けて作られました（昭和5年）。



▲国道170号の一部で、大阪の「外環状線」にもあたる現在の枚方大橋。



▲開通の日には、小学生による渡り初めなど盛大な祝賀行事が開かれました。

枚方の発展を支え、架橋80年を迎える

枚方大橋

今から80年前の昭和5年10月10日、枚方と摂津三島方面を結ぶ枚方大橋が開通しました。当時は、大阪・長柄橋から京都・御幸橋間の淀川流域に架かる唯一の橋で、長年の要望が実った地元の歓迎ぶりは相当なものでした。開通当日は、提灯行列やおどんの炊き出しなどまちを挙げてのお祭り騒ぎだったそうです。「記念式典には芸子さんも来て、華やかでしたよ」。地元の幼稚園に通っていた早川久春さん（三矢町・86歳）は、その日のにぎわいを今でも覚えているそうです。「それまでは高槻への渡し船しかなかったから、立派な橋ができたのが嬉しゅうてね。開通してからは、よく兄と橋を渡っては高槻の川岸へシジミ採りに行ったものです」と懐かしく思い出を語ります。

初代の枚方大橋は、京阪電鉄の宇治川・木津川の鉄橋架け替えの際に、府が古鉄橋を譲り受けて造られたものでした。長さが694メートル、幅6.64メートルで、淀川兩岸を結ぶ大動脈の役割を果たし、枚方の発展を支えてきました。現在の2代目は、旧橋の老朽化と交通量の増加のため昭和43年に架け替えられたもので、平成14年度から18年度にかけて耐震補強が施され、災害時の緊急輸送路に位置付けられています。12時間当たり約3万4500台（平成22年度調査）が通る交通の要所で、今も市民生活に欠かせない橋として活躍しています。

（平成22年8月号）